

プロジェクト会議

2020. 5. 14

梁川高校では、学校再開へ向けて、来週5月18日（月）より分散登校を開始し、授業を行う。一斉臨時休業期間がまもなく1ヶ月に及ぼうとしているが、ようやく学校再開への道筋が見えてきたところである。

そこで、本校では「プロジェクト会議」を開いた。何のプロジェクトかという、3年生の進路希望を実現させるための特別プロジェクトである。このような状況の中で、生徒一人一人のことが心配ではあるが、最優先事項は、3年生の進路である。特に就職である。

新型コロナウイルス感染症の拡大が様々な業種に大きな影響を与えている。高校生の求人状況が例年と変わらないとは考えにくい。であるならば、早め早めに手を打たなければならない。そのためプロジェクト会議である。

高校生の求人状況だが、多くの業種で厳しくなることが考えられる。ただし、介護と運輸に関しては影響が少ない模様である。ここで、打てる手だが、求人の開拓、掘り起こしが考えられる。今までは求人が来ていなかった事業所にも、こちらからお願いするのである。

また、このような状況ではWebによる採用試験の可能性もある。生徒からすると急に対応できるものではない。対策としての環境整備が必要である。現在は、大切な連絡を学校からの一斉配信メールとホームページによって行っている。これから進路対策が本格化してくると、3年生の生徒一人一人とメールでのやりとりができると便利である。夏休み中も活用できる。学校の方で進路対策専用のメールアドレスを設定するようにしたい。

既に3年生は例年よりも早く履歴書記入などに取り組んでいる。授業が再開された場合、時間割を3年生用にシフトすることも考えられる。具体的には、LHR（ロングホームルーム）や総合的な学習の時間などを通常よりも増やすことが考えられる。年間の単位数（授業時数）は決まっているので、ほとんどの生徒の就職が決まった頃から減らしていた科目を入れるなどの調整は必要となる。

現状では、就職活動が例年よりも遅くなる可能性もある。そうなると、10月に予定されている小文化祭にも影響が出てくる。小文化祭の開催時期、開催規模などの再考、就職活動のための時間の確保などの配慮が必要となってくる。

資格試験対策も重要な要素である。6月に行われる資格試験は延期とはなっていない。このような状況でも何とか合格させなければならない。そのためには、生徒のネット環境を確認した上で該当生徒に限定したオンライン授業や課外授業も考えなければならない。

3年生では、例年、夏休みに「三者面談」を行っていた。今年は、早めに行う必要がある。ここでは、就職や進学の意味確認などが必要となってくる。保護者の方の都合によるが、学校が再開され、授業が午前中で終わる期間があれば、午後の時間を三者面談に使うこともできる。あるいは、3年生は三者面談を行い、1・2年生は生徒と担任との二者面談を行い、学校全体を「面接旬間」として短縮授業期間とすることも考えられる。

プロジェクトには名前が必要である。ネーミングは大切である。例えば、「SBCプロジェクト」などはどうだろうか。S（Success）B（beyond）C（the coronavirus）である。コロナに打ち勝った向こうにある成功、コロナを乗り越えた先にある成功という意味になる。このプロジェクトは学校を挙げての全校体制となる。プロジェクトの成否が3年生の進路実現に大きく関わることになる。本校の重点努力目標の一つめが「希望する進路の100%達成」である。